



高校生30人ら、「一本のペンで」を演奏 「情勢にぴったりの歌ですね」 原水爆禁止2010世界大会・長崎の舞台

♪開幕まで
あと**60**日

「ナガサキから世界へ」大音楽会（10月16日・金曜/県立体育館かぶとがに）のエンディングで、「会場のみなさんとともに大合唱を」と、準備されているのが「♪一本のペンで」です。長崎の高校生一万人署名活動の中からうまれ、池辺晋一郎さんが被爆者の声を語り継ぐことに思いを込めて作曲しました。

この歌が9日、原水爆禁止 2010 年世界大会・長崎で全国に向かって初めて演奏されました。

舞台には、高校生約30人を含む「一本のペンで」合唱団が登場し、横断幕を掲げて元気に演奏。練習では「難しいネ」と話していた女子高校生も「のりが良くて元気が出ました」と笑顔です。全国から参加した人たちからは、「初めて聞きました。今の情勢にぴったりですね」「高校生の元気な姿に励まされました」との声が多く聞かれました。

「♪一本のペンで」は、長崎祭典の記念普及曲として16日の開幕前に歌唱指導され、「みんなで歌おう～シンキングブラザ」でも紹介されます。（エンディングの演奏指揮は活水学院の岩永崇史先生です）



躍動する若い力！長崎女子高校龍踊部

県内で人気上昇中の鶴鳴学園長崎女子高校龍踊部。休日ともなれば、長崎市内を中心に県北へもでかけ、引っ張りだこ。「紅い龍踊り」集団として本番の日々が続きます。

学業に励みながらの部活はたいへん。持ち前の若さで厳しい練習をこなします。

10月16日には、そのパワーが「県立総合体育館・アリーナかぶとがに」ではじけます。全国のみなさんだけでなく、県内の人たちからも、大きな拍手の中で紅い龍(じゃ)が宙に舞うことでしょう。



興福寺での舞い

かぶとがに
紅い龍が
宙に舞い

「2010年日本のうたごえ祭典in長崎」記念 長崎のうたごえ

演奏交流会

9月5日(日) 1時半
長与町民文化ホール



「長崎のうたごえ・演奏交流会」は、県内の合唱団やうたごえサークルが交流し、日ごろの練習の成果を発表し合うものです。各県で年一回開かれています。

ここで演奏した合唱団やサークルの中から、優れた団体が推薦をうけ、日本のうたごえ祭典の合唱発表会（10月15日～17日）で演奏する機会が与えられます。

合唱発表会はコンクール形式です。一般A、一般B、女性、職場、小編成、交流の6部門の発表会とオリジナルコンサートが、日本のうたごえ祭典 in 長崎と並行して開かれます。

台風のため、鉄橋宣伝は26日3時に延期されました。

「歌好きですか？」と声かけて・ まず、言わないと始まりませんからネ

チケット
広げてます

今週の主な予定

- 17日(火)
 - ・企画委員会
- 18日(水)
 - ・「あの子」練習会 10時
 - ・事務局会議
- 19日(木)
 - ・大地讃頌練習会
6時半生き生き
- 20日(金)
 - ・働くもの練習会
 - ・男声合同
- 21日(土)
 - ・運営委員会・2時
- 22日(日)
 - ・青年のうた練習会
- 23日(月)
 - ・
- 24日(火)
 - ・干潟の詩練習会
1時・ガスホール

◆親戚の人とか、家を訪ねてくる知り合いの人とか、「だめもと」でチラシを渡してチケットをお願いしています。とにかく「チケット買ってといわないことには始まりませんからネ」。もちろん必死ですよ、ここまできたら。(Yさん)

私「歌好きですか」・・・★「うん、まあ好きです」

私「実は、10月にこんな音楽会があるんですよ(チラシを渡す)」

・・・★「出るんですか？」

私「実はそうなんです・〇〇〇と〇〇〇に」・・・★「それなら行かんばでしょ」
こんな調子です。20枚にメドがたってきつつあります。なんとか。

◆「私、コーラスの経験ないんですけど、練習は楽しいです。池辺先生の指揮で歌えるなんて、すばらしいことですよ。みなさんの足を引っ張ったらいけないから、歌詞だけは早く覚えようとかんばっています」「人生で一度しかないことですからね。チケットもがんばって売らないとね。遅れているみたいですから」(G/J合唱団・wさん)

◆私の目標は50人突破です。知り合いの人に「まず声をかける」ことです。意外とダメかなと思っていた人も買ってくれます。最初の一步が大事だと思います。昨日までで26枚になりました。

(田中 寛さん)

チケット言及袋ができます
16日の大音楽会(全席自由)チケットの普及に役立つように、「預けた人とチケット番号が書き込めるようになった封筒ができます。チラシと祭典ニュース、うたごえ新聞もいつも持ち歩いてお願いしましょう。

長崎祭典つくる人
応援する人
支える人

「平和の旅へ」演奏 桜馬場中学校



「平和への想いつなぐコンサート」(10月15日)

司会を担当する 里 正善さん

渡辺千恵子さんの司会

初対面で広島へドライブ

語りと合唱の組曲「平和の旅へ」に描かれた、渡辺千恵子さんとの

出会いは突然に訪れました。一九

八二年三月一日、私は、長崎から

スタートした平和リレーの広島到着の後に、渡辺さんに一緒に歩いていただくよう電話でお願いしました。学習会のため列車では間に合わず、私の運転する車で広島にお連れすることにしました。

土曜日の午後3時に待ち合わせ、初対面の二人は勤労福祉会館から一路広島へ。ところが当時の高速道路は山口県内の鹿野止まり。車椅子用トイレも数ヶ所しかありませんでした。徳山、岩国を経て広島東急インに到着したのは午前2時でした。2人ともクタクタに疲れていました。千恵子さんは後日私に、「あれで、迷っていた『平和の旅』へ出る自信があった」と明かしてくれました。

今年5月のNPTR再検討会議とその後の動きは、「生きていくうちに核兵器の廃絶を見届けたい」と願う被爆者たちを大いに勇気付けています。

渡辺千恵子さんごもし生きていたら82歳、今の動きをどう受け止めるでしょうか。祭典での私の役目は、ブリックホールでの司会です。翌日演奏される「平和の旅へ」は、当時に思いうかべながらしっかりと聴かせていただきたいと思います。

被爆65周年を記念する、長崎祭典の二日間か今から楽しみです。

